

SEA TRIAL

SONG OF NATURE

TARGA 30.1

“THE 4×4 OF THE SEA” をキャッチに掲げる「TARGA(タルガ)」はフィンボート(フィンランド・ボート)の代名詞とも言われている。

そのラインナップには“Seaworthy by design. Luxurious in detail.”というフィロソフィが息づいている。

そんな「TARGA」のニューモデル「30.1」が日本初上陸を果たした。

トラディショナルな北欧スタイルが特徴的な30フッターは、マックス38ktという恐るべきポテンシャルを秘めていた。

text: Atsushi Nomura photo: Masakatsu Sato
special thanks: WINCKLER www.wslc.co.jp/yacht/





驚くべき航走ポテンシャルと、フィンランドならではの品の良いインテリア まるで耐候性を持った豪華な北欧ハウスのような上質さに包まれた FINNBOAT

北欧フィンランド生まれの「TARGA (タルガ)」は1976年に創業した「Botnia Marin」社にて製造されているボートブランド。本誌2017年2月号で「TARGA 35」を紹介した際に詳報したが、ここで再び概略を紹介しよう。2017年現在、「TARGA」シリーズは23～44フィートのレンジに8艇種をラインナップしている。「TARGA」はヨーロッパで「Wheelhouse & Walkaround」と呼ばれるカテゴリーのボートに該当する。ホイールハウスとは伝統的な船に多い操舵室のことで、デッキ中央に操舵室が配されたウォークアラウンドレイアウトのボートである。また「TARGA」の



姉妹ブランドに当たる「Tarfish (ターフィッシュ)」はほぼ同様のレイアウトのオフショアフィッシングボートで、こちらは3艇ラインナップされている。その他にもBotnia Marinではフィンランドのコーストガードやレスキュー艇などのプロユースのボートも製造。40年ほどでフィンランドを代表するボートビルダーとなった。

*

今回紹介するのは「TARGA 30.1」。ホイールハウスの後方上部にフライブリッジを設けた、独特のデザインの30フィート艇だ。前側へ逆傾斜



実用性一点張りではなく、お洒落で遊び心もたっぷりのエクステリア。チーク張りのデッキはフォアにもアフトにもダイニングテーブルを配置可能だ。デッキの後ろ半分をくると囲むバルビットは分厚い無垢のチーク製。観音開きのスタンゲートがゲストに優しい。爽快な操船フィールを約束してくれるフライブリッジは、詰めれば3名が着座可能。レーダーアーチは可倒式で、喫水からの高さを4.40mから3.20mまで下げられる。試乗艇はフライブリッジ前部へアクセス可能な特注のハンドレール付きだった。パワートレインはVOLVO PENTA D4-260(260馬力)×2基。ジョイスティックコントロール付きのアクアマティックドライブで、ドッキングも楽々。





ウッドをふんだんに採用した船内はまるで北欧家具のような雰囲気。豪華さと耐候性、快適性、そして機能性を兼ね備えている。ヘルムステーションはコンソールごと角度を変えられる。ダイニングテーブルはセンターポールに沿って上下に動かせ、一番下に合わせればバースに、不要な場合は天井に付けられる。アフトキャビンは簡易に2部屋にセパレートされている。簡易ギャレームも必要十分。専用の食器類が備わっているのもヨーロッパ的だ。

したフロントウィンドウ、ホイールハウスにはサイドドアと、とてもトラディショナルな雰囲気の北欧スタイルで、どちらかと言えば可愛い外観が特徴だ。

日本に限らずプレジャーボートは一般的にアフトドア仕様が多数だが、キャプテンにとっては圧倒的にサイドドアの使い勝手が良い。ヘルムからすぐデッキに出られるため、離着岸時に限らず利便性も高い。ワークボートなどの多くがサイドドアを採用しているのも首肯。以前紹介した「TARGA 35」は、その大きさから、サイドドアに加えて、アフトドアオプションも追加されていた。しかしファミリーユースを想定した今回の「30.1」フィートクラスであれば、両舷のサイドドアのみで十分だろう。



そのサイドドアから室内に入れば、ウッドを多用した温かみのある居住空間が広がる。クラシカルな雰囲気でも落ち着いた大人の印象である。以前25フィートおよび27フィートの「TARGA」を内覧したが、それに比べ特に高さ方向のボリュームがアップしている。ホイールハウス内は最前部に

バウキャビン、中央右舷にヘルムステーション、左舷のパッセンジャーシート前にはミニシンクとガスコンロが標準で設けられる。

ハウス後部のダイニングエリアは「H」字型と「U」字型の2パターンのソファプランがあり、試乗艇は「U」字型。特徴的なのはダイニングエリア中央のポールで、ダイニングテーブルを使わない場合はポールに沿って上に持ち上げ天井にセットする。さらに、ダイニングテーブル底面に支柱を付けて足許まで下げ、上にクッションを乗せればバース代わりになる。

ヘルムシート後方、ソファ脇のステップを降りてアンダーフロアへ。目の前の壁には、上質なコートフックが並ぶ。まるでハンギングロッカーだ。全体にウッドが多用されており、まるで北欧家具の中にいるかのよう。アンダーデッキにはシャワー付きの個室ヘッドとアフトキャビンが設けられている。アフトキャビンはダブルサイズベッドとシングルサイズベッドの2つにセパレートされており、上下に分かれれば4～6名程度はオーバーナイトできるだろう。

フォアデッキとアフトデッキにはダイニングテーブルをセットできる。

フォアデッキにはかなりしっかりとターフを設けられるため、強い日差しの中でもピクニックを満喫できそう。面白いのはフライブリッジ。ホイールハウス後部にちょこんと設けられているが、機能的には立派にアッパーヘルムステーション。今回の試乗ではマックススピードテストも行ったが、ウィンドシールドがかなり機能しており、非常に爽快だった。なお喫水からレーダートップまでは4.40mあるが、レーダーアーチは可倒式。3.20mまで下げることができる。

*

エンジンバリエーションは、1基掛けが330・370・400馬力、2基掛けが225・260・300馬力の6種類で、すべてVOLVO PENTAのインアウト仕様。試乗艇はD4-260(260馬力)の2基掛けである。

今回の試乗は10m/s弱の強めの風が吹く横浜沖で行われた。波高も1m弱あるチョッピーな水面だったが、耐候性を謳う「TARGA」は物ともせずに突き進む。ハーフミラーコーティングのロールアップスクリーンが海面の乱反射から目を守る。27～32ktで高速旋回のマニューバをテストしたが、思い通りの操縦性で非常に楽しい。しかも着水時の衝撃がとてもソフトで乗り心地も抜群。このコンディションの中でも、マック

ス37kt後半をマークした。コンディションにもよるが3,500rpmで38ktがマックス、3,000rpmで30ktがクルーズスピードということだ。また、VOLVO PENTAのアクアマティックドライブはドッキング時のジョイスティックコントロールが可能で、離着岸も非常に楽である。

そして最後に、忘れてはならない事をもう一つ。優れた耐候性・凌波性とハイスピードに目を奪われがち「TARGA」の魅力であるが、スローで走らせた時の落ち着いた雰囲気も忘れてはならない。穏やかな海を、家族や気の合った仲間たちと楽しむピクニッククルーズ。このトラディショナルな雰囲気のボートには、むしろそういった遊び方こそぴったりということも付け加えておきたい。P.B.

TARGA 30.1

全長	10.08 m
全幅	3.25 m
喫水	1.10 m
重量	5.50 ton
エンジン	2×VOLVO PENTA D4-260
最高出力	2×260 HP
燃料タンク	600 L
清水タンク	120 L
スピード	Max 38 kt
問い合わせ先	ウインクル TEL: 045-681-0104
www.wslc.co.jp/yacht/	



YouTube